

プロジェクト名 | ヤマト住建・2050先導型住宅 – 耐水害・在宅避難継続型モデル –

レジリエンス措置の内容		
<想定するリスク（課題） およびその背景・必要性> ■ 想定するリスク：豪雨・洪水・内水氾濫による浸水被害 ■ 背景・必要性：浸水時において建物被害に加え、下水逆流や住宅設備の故障、停電による生活機能の停止が発生し、生活継続が困難となる。2050年に向けて高齢化が進展する中、避難所ではなく自宅で生活を継続できる住宅の実現が求められている。		
<提案・解決策> 措置の適用範囲：一戸単位での措置 1 平常時 浸水・停電への備え 耐水害仕様の住宅 全負荷200V対応蓄電池 太陽光発電 ✓ 基礎・外壁・開口部等の水密性を向上 ✓ 排水管に逆止弁を設置し、下水逆流に備える ✓ エアコン室外機、屋外コンセント等は高所に設置する ✓ エコキュートは電装部分が1m以上の高さにある耐水害用のものとする ✓ 蓄電池と太陽光発電を設置し、停電に備える 2 発災時 豪雨・洪水・内水氾濫の発生 浸水・下水逆流抑制と停電時の電力供給 浸水抑制 (最大1m程度) 下水逆流抑制 (逆止弁) 停電時も住宅全体へ電力供給 (200V機器含む) 建物内部への浸水を抑え、衛生環境と生活機能を守る 3 発災直後 在宅避難の継続を支援 照明 冷暖房 通信機器 冷蔵庫など家電 蓄電池と太陽光発電で必要な電力を確保し、自宅での生活を継続 4 復旧・回復期 被害軽減と早期の生活再開 ✓ 設備の高所設置と耐水害仕様により被害を軽減 ✓ 清掃・点検・修理の負担を軽減 ✓ 早期の生活再開を実現		
提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
地盤面から最大1m程度の浸水を想定した耐水害仕様と全負荷200V対応蓄電池を組み合わせ、水害後も住み続けられる住宅を実現する先導的な住宅モデルである。	耐水害仕様は建材メーカーとの協力のもと複数回の実験を経て開発を行い、令和8年6月より市場展開を開始している。実用化済みの技術であり、既存の設計・施工体制で対応可能である。	本提案を通じて得られた施工方法や効果検証結果を活用することで、水害対策を考慮したレジリエンス住宅の普及促進に貢献し、将来的な住宅の標準性能向上につながることが期待される。
効果検証の方法		
通常の方法	災害が発生した場合に、特別に実施する方法	
入居者アンケートを実施し、耐水害仕様に対する安心感、停電時の生活継続に対する安心感、防災意識の変化等を調査する。	住宅被害状況調査を実施し、浸水状況、設備被害、下水逆流の有無等を確認する。その後、居住者へのアンケート・ヒアリングにより、在宅避難の実施状況や蓄電池利用状況を調査し、耐水害仕様および蓄電池の有効性を検証する。	